

## 下関の情報を航空機内で 本誌『083(ゼロハチサン)』を配布

本誌『083』は北九州空港と東京羽田空港を結ぶスターフライヤー便の機内でも配布されています。北九州空港を発着する航空便は、東京便が3社で1日15往復と、わが国の国内定期路線では最も朝早く飛び立ち、最も夜遅く終着を迎える路線として関門・北九州地域の観光、ビジネスの足となっています。

また、下関市内から北九州空港までは、連絡バスや乗合いタクシーが運行されており、関東方面から下関市を訪れる観光客やビジネス客にとってその利便性が高まっています。

龍馬ゆかりの地として、また映画の街として、観光に力を入れる本市では、下関市のもつ自然、歴史、文化をはじめとするすばらしい地域資源をひとりでも多くの方に知っていただくため、(株)スターフライヤーの協力を得て、同社の北九州-東京羽田線の機内で本誌『083』を2010年1月から乗客の皆さんに配布しています。



## 083 ゼロ ハチ サン うみ やま たいよう VOL.7

2010年10月1日発行

編集人=福田章

ディレクター=大野金繁

アート・ディレクター=宮崎陽子

編集委員=林 望

発行=下関市

〒750-8521 山口県下関市南部町1番1号

☎083-231-2951 (総合政策部広報広聴課)

制作統括=サンデン広告(株)

印刷=(株)アカマ印刷

協力=下関市の皆さん

アドバイザー=下関フィルム・コミッション

常任委員長 富永洋一

九州芸術学館山口校

代表 伊東丈年

○バックナンバーのご希望は、下関市までお問い合わせを。創刊号、第2号、第3号は在庫切れです。

☎083-231-2951 (総合政策部広報広聴課)

○下関市ホームページからも電子ブックで『083』が読めます。

<http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/083/>

本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

## リンボウ寸言

### 『今も、風のように』 林 望



かの福山雅治君演じる所の龍馬は、ちとハンサムすぎる嫌いがあるが、実際龍馬という人は、会ってみたらどれほど魅力に満ちた男であったろうか。天もし彼に藉すにあと二十載ほどの寿を以てせば、とそんな想像もしたくなるけれど、案外、薩長政府の俗体なありようを見限って、あっぱれ世捨て人にでもなったやもしれぬ。本誌は、この不世出の異材の、美しい一面を、下関という物差しを宛てて読み出す。今もこの町のどこかに、龍馬の魂が風のように行き来している、ような気がする。

## 083仮面のつづやき

関門海峡をはさむ両岸の都市のどちらかが理系で、どちらかが文系だとすれば、その偉大な脳科学者は関門橋のような存在である。人間界のあらゆる関心を、誰にでもわかりやすくつないでくれる。海峡の急潮よりも早口であることは、出ない日はないくらいのテレビ番組を視れば、一目瞭然。脳の回転と心の熱風が尋常な話し方のスピードを許さないのだろう。その茂木健一郎さんが下関市での講演直前、演台におかれた「赤毛のアン」人形をナデナデしていた。話し始めれば一転、今の日本がかなり危ないところにいると断じて、聴衆の心を離さない。それから、ここに茂木健一郎がいて、求心力あふれる話題を次々に展開しているという、それ以外の状況では起こりえない「クオリア」を、シーモールホールに漂わせた。その一回性のクオリアに通じる文章が、この号の巻頭を飾っている。坂本龍馬について、こんなアングルから語れる人は他にいまい。(F)

## アンケート & プレゼント

『083』は今これを手に取られたあなたのための情報誌です。つねに深い眼差しを心がけて、皆さまの役に立つ情報を、ワンテーマ方式で下関市から発信してまいります。第7号についてのご感想、及び今後特集してほしいテーマやとっておきのお知らせなどを、綴じ込みハガキでお寄せください。アンケートに回答いただいた方の中から抽選で①「スターフライヤー」の北九州-東京羽田間ペア往復航空券目録を1名様に、②モデルプレーンを5名様に、③4ページに登場する茂木健一郎さんの著書『龍馬脳のススメ』(主婦と生活社)を5名様に、④19ページに登場する坂本龍馬さん編集の『RYOMA』(主婦の友社)VOL.1~4各1部のいずれかを4名様にプレゼントします。応募締切は平成23年3月31日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。なお、応募はお一人様1号につき1通に限らせていただきます。複数応募は無効となりますので、ご注意ください。



## 次号予告 (2011年3月1日発行予定)

## 映画の都

街角にさまざまな時代が刻まれた絶好のロケ地、下関。名画をたどる旅は、もうひとつの感動を呼び起こす。

